

『智学館中等教育学校』設置認可へ

県央地区初となる中等教育学校の誕生に注目が集まる

学校説明会に多数の保護者が参加 智学館に対する期待の高さを示す

学校法人常磐大学が水戸市小吹町内に建設を進めている智学館中等教育学校に対し、茨城県私立学校審議会が2007年10月3日、設置認可を適当と答申し、これにより認可される見通しとなった。

智学館とは『知性と品格をそなえた智者となるための学舎』という意味。水戸市を中心に行われている学校説明会には児童を連れた熱心な保護者が数多く参加し、智学館の教育内容の説明に真剣な眼差しで耳を傾けていた。また面談では具体的な質問が多く、30人学級と習熟度別学習、到達度学習システム、英語環境の日常化、スクールステイ、完全学校週6日制、実験実習重視の理科教育などに保護者の関心が集まった。

第1回入学試験の出願開始まで約1カ月と迫り、説明会会場の熱気は高まる一方。県央地区初の中等教育学校に対する、保護者たちの期待の高さを表している。



多数の保護者が集まった学校説明会

学校説明会日程

開催日	開始時間	会場
10月27日(土)	14:00	県立青少年会館(水戸市)
11月3日(祝)	10:00	県民文化センター(水戸市)
11月10日(土)	14:00	県民文化センター(水戸市)
11月17日(土)	14:00	県民文化センター(水戸市)

12月以降の開催日程はHPをご覧ください。

入試もぎ問題集
 水戸市周辺の書店で販売中。
 学校説明会では
 無料配布しています。



2008年度 入学試験要項(概要) 詳細についてはHPをご覧ください。(2007年10月1日現在)

試験区分	第1回入学試験		第2回入学試験		第3回入学試験	
	智学館入試(専願)	一般入試A(併願)	一般入試B(併願)	帰国子女(併願)	一般入試C(併願)	帰国子女(併願)
募集人員	男女40名	男女50名	男女20名		男女10名	
出願期間	【郵送】2007年11月12日(月)~11月19日(月)必着 【窓口】2007年11月19日(月)~11月20日(火)	【郵送】2007年12月10日(月)~12月24日(月)必着 【窓口】2007年12月24日(月)~12月25日(火)	【郵送】2007年12月10日(月)~12月24日(月)必着 【窓口】2007年12月24日(月)~12月25日(火)		【窓口のみ】2008年1月15日(火)~1月17日(木)	
試験日	2007年11月24日(土)		2008年1月6日(日)		2008年1月20日(日)	
試験会場	水戸会場	水戸会場 日立会場 鉾田会場	水戸会場 土浦会場	水戸会場	水戸会場	
試験科目	記述式 国語、算数 作文、面接	記述式 国語、算数 社会、理科	記述式 国語、算数 社会、理科	記述式 国語、算数 作文、面接	記述式 国語、算数 作文、面接	記述式 国語、算数 作文、面接
合格発表	2007年11月28日(水)		2008年1月9日(水)		2008年1月22日(火)	

智学館中等教育学校HP <http://www.tokiwa.ac.jp/chigakukan/>
 (HPの内容が10月1日にリニューアルされました)

常磐大学人間科学部に健康栄養学科を新設（設置認可申請中）

医療・介護チームの一員として活躍できる 管理栄養士養成を目指す



新設学科の定員

大学名	学部名	学科名	入学定員(人)
常 磐 大 学	人間科学部	健康栄養学科	80
		(3年次編入学定員)	4
		心理学科	90
	(3年次編入学定員)	5	
	教育学科	40	
	(3年次編入学定員)	2	
国際学部	経営学科	70	
	(3年次編入学定員)	4	

常磐大学は2008年度から3学部10学科に

常磐大学では2007年6月29日、文部科学省に人間科学部健康栄養学科の設置認可を申請した。そして、文部科学省では6月末に申請があった学部・学科・短期大学の学科について7月18日に大学設置・学校法人審議会に諮問した。設置認可は11月末の予定。同時に健康栄養学科は管理栄養士養成学校の指定申請を厚生労働省に提出しており、同学科の卒業時には栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格(指定申請中)が得られる予定。

従来、常磐短期大学生活科学科食物栄養専攻は、厚生労働省認可の栄養士養成課程で、これまでに県内に数多くの栄養士を輩出してきた。20世紀の栄養士業務は、献立作成や調理を主体とする集団給食管理が中心であったが、21世紀のこれからの栄養士業務の目標は患者主体の栄養マネジメントや生活習慣病予備群の食生活改善など、“個人”を把握した対応の重要性が求められている。

このような社会の要請に応え、常磐短期大学生活科学科食物栄養専攻を廃止し、常磐大学人間科学部に健康栄養学科を新設し、幅広い教養教育と高度で専門的な知識や技術を有する管理栄養士を育成することを目的としている。

小学校、幼稚園教諭一種免許状取得可能へ（認可申請中）

心理学科、教育学科、経営学科の設置届出が受理される

健康栄養学科の設置認可申請に先立ち人間科学部心理学科、教育学科および国際学部経営学科の設置届出を4月20日に文部科学省に提出し、受理された。届出を行った3学科のうち、教育学科では初等教育学と幼児教育学の双方から時代に即した専門知識と技術を習得するとともに、知識に裏付けられた実践力を養い、高い学習支援能力と深い人間理解を身につけた教育のプロフェッショナルの育成を目指している。このため、同学科では小学校教諭1種免許状および幼稚園教諭1種免許状の課程申請を文部科学省に提出し、幼少連携を視野に入れた教員養成に取り組んでいく。



管理栄養士学校指定申請の改築工事も終了し、来年から健康栄養学科の専用校舎となるA棟



中等教育学校で学ぶ 『智』の在り方

～智学館中等教育学校への期待～

阿部 充夫氏 (学校法人 常磐大学 顧問)

中高一貫教育の中で、中学と高校の結びつきが最も密接な中等教育学校。学校法人常磐大学が運営を予定する智学館中等教育学校も、2008年4月の開校に向けて着々と準備が進められている。しかし、いまなぜ中等教育学校が求められているのだろうか。その経緯や教育効果について、元・文部事務次官の阿部充夫先生にお話を伺った。

「現在の6・3・3制は戦後の学制改革で導入され、小学校の6年間と中学校の3年間が義務教育となりました。義務教育とは社会人になるための最低限必要な教育。私は教育上のシビルミニマムと言っていますが、それは電気や水のように生活に欠かせない知識を学ぶのが義務教育だという意味です。事実、新制高校がスタートした当初は、60%ほどの生徒たちが中学を卒業すると就職していきました。ところが6・3制が動き始めるとすぐに進学率が上昇。1970年頃には80%を超え、現在は97%台と、ほぼ全員が高校へ進学するようになってしまった。こうなると社会人としての完成教育である中学と、その先にある高校とのつながりをどう考えるのか難しくなってきます」

例えば国語のように習得する漢字の数を増やすなど、積み上げができる教科はいい。しかし歴史などの教科は、深く学んでも歴史に違いはない。つまり、同じ内容を2度学ぶムダが生じるのだ。

「もうひとつの問題は入試です。中学でも高校でも、入学したときから3年後に行われる入試が気になってしまう。すると受験勉強に意識が傾き、普通の勉強が乱れる場合もあります。さらにこの問題は、子供たちの精神的な発達にも影響します。中学から高校時代は、自分の頭で物事を考えたり自分を顧みる習慣を付けておきたい年代です。受験勉強に追われていては、本当の『智』という言葉の大切さに気づきません」

これらの問題をクリアしてくれる教育機関として、中等教育学校は注目されているのだ。

「学校法人常磐大学が設置する智学館中等教育学校は、ぜひ成功させてほしいですね。そのためには、長所を活かしていく努力をしなければなりません。3・3と細切れだったために生じていた学習のムダを省き、そこに生まれるゆとりを活用していただきたい。子供たちがゆとりを持って勉学に臨むことは、決して悪いことではありません」

ゆとり教育に関して、さまざまな意見があることは事実だ。しかし、それはゆとりの時間の作り方や、使い方に向けられたものが多い。基本的にゆとりの中で子供たちを育てていくことは、大変なことだと阿部先生は言う。

「グローバルマインド、ソーシャルマインド、サイエンスマインドの3つも、非常に良い目標を掲げられたと思います。また、人間関係を深めるスクールステイや、自分と向き合い精神的な力を育む智学館タイムも良い。しかし最も大切なことは、先生方全員が智学館の教育理念を理解し、それを授業に活かしていくことです。いくら形を整えても、実際の授業が従来通りでは何にもなりません。ただ智学館に関しては、あまり心配はないでしょう。中等教育学校がどのような教育を行うのが注目されている現在、先生方も緊張して開設準備に取り組んでいらっしゃると思いますから」

県央地区初となる智学館中等教育学校には、「茨城の教育をリードする存在になってほしい」と、阿部先生は期待を寄せていた。

Profile

あべ・みつお 1932年生まれ。東京大学法学部卒業。1955年文部省に入省後、管理局長、教育助成局長、高等教育局長を経て文部事務次官に就任。退官後、特殊法人・放送大学学園理事長、東京国立博物館館長を歴任し、現在、放送大学教育振興会会長を務める。1995年4月から1997年12月まで学校法人常磐学園理事を経て、1997年12月より同顧問となり現在に至る。

「弘道館八景写真展」「水戸拓デジタル・アート展」開催

デジタル技術で表現する弘道館の魅力



弘道館の廊下に作品を展示する水嶋ゼミの学生たち

日本最大の藩校といわれる弘道館の設立150周年を記念して、コミュニティ振興学部・水嶋英治教授のゼミ生たちが「弘道館八景写真展」と「水戸拓デジタル・アート展」を開催した。会場はJR水戸駅、京成百貨店、そして常磐大学（オープンキャンパス、日本教育情報学会大会で開催）。2007年7月中旬から一斉にスタートし、多くの人たちに弘道館の歴史や文化とふれあう機会を提供した。水嶋ゼミでは約1年前から「弘道館デジタル・アーカイブプロジェクト」を推進。歴史的、文化的資料の写真などをデジタル化し半永久的に保存する取り組みを行ってきた。今回のイベントは、ゼミ生たちが撮影した7000枚にも及ぶ膨大な写真資料の一部を公開する目的もある。昔の弘道館の写真と同じアングルで撮影し、現在と比較する研究目的の写真、また、弘道館の四季を美しく切り取った写真などアプローチもさまざま。弘道館の歴史的価値や美しい景観を水戸市民にアピールしていた。



京成百貨店で開催されたパネル展

第7回アジア地域大学院コース開講

被害者学研究のアジアの拠点に集う

常磐大学国際被害者学研究所と世界被害者学会が主催する「アジア地域大学院コース 被害者学および被害者援助論」が7月30日から8月10日にかけて常磐大学見和キャンパスで開催された。これは毎年、世界の3地点(日本、クロアチア、エルサルバドル)で開催される被害者学や被害者援助論を2週間で学ぶプログラムの1つで、アジア地域では常磐大学がホスト校となって今回で7回目となる。今回の参加者は41名をかぞえ、前回同様、インドネシア、ネパール、韓国、イタリアに加え、新たにオーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、スリランカ、ベトナムからの参加があった。今回のコースは、ジョン・ドゥーシッチ所長をはじめとする国際被害者学研究所に所属する教授らの他、サム・ガルカウエ教授(オーストラリア)、ファチリ・ベイ教授(インドネシア)、ディック・アンゼンゲ教授(アメリカ/ナイジェリア)など、世界的に著名な被害者学者や被害者援助の専門家を講師に迎えて行われた。受講生と講師の両方の立場で初参加した精神科医のダン・ドゥイ・タン氏は「ベトナムにおける枯れ葉剤被害」について講義を行い、被害者の実情に心を動かされた参加者からベトナム政府宛に被害者救済策を求める嘆願書を作成しようとの声がかき上がった。そして、南オーストラリア州政府・被害者の権利委員会委員のマイケル・オコーネル氏(オーストラリア)が起草し、参加者全員が署名、タン氏がベトナムに持ち帰った。



ダン・ドゥイ・タン氏



閉会式で修了証書を手にした参加者

常磐交換留学制度

2007年度交換留学生10名到着

カリフォルニア州立大学ノースリッジ校及びフレズノ校よりそれぞれ5名、合計10名の交換留学生が9月10日無事到着した。今年で留学生受け入れは4年目。秋 Semester 期間中、「日本語」の他、「日本事情」や「日本研究」を学ぶ。また EC 英会話活動、オープンキャンパス、英語スピーチコンテスト、ときわ祭、梅が丘小学校訪問交流、日本語チューターとの交流活動などいろいろな学内外のイベントに参加して国際交流活動にも積極的に参加する予定である。



ウェルカムティーパーティー

オープンキャンパス開催

健康栄養学科ミニシンポジウム開催

常磐大学・常磐短期大学を体験するオープンキャンパスが、今年も開催された。第2回の7月28日には約1000人、第3回の8月22日には約800人が参加。つかの間の大学生気分を味わった。

当日の企画は、入試説明会、個別相談、キャンパスツアーなど盛り沢山。中でも特別企画では、各学科ごとにさまざまな企画を実施し、参加した高校生たちを楽しませていた。そして模擬授業では、大学で実際に行われている授業を体験。人気の集中した授業では、教室が満席になる程の大盛況ぶりだった。

また7月28日の第2回オープンキャンパスでは、人間科学部健



大学の講義が体験できる模擬授業



健康栄養学科・ミニシンポジウム

康栄養学科（設置認可申請中）による特別企画・ミニシンポジウムを実施。病院、保健所、障害者支援施設、小学校で活躍する現役の管理栄養士である常磐短大OG4名を招き、『今なぜ管理栄養士なのか』と題してお話を伺った。常磐大学に管理栄養士養成課程ができるメリットとして、短大40年の歴史を生かした協力体制や卒業生ネットワークなどが挙げられ、今後ますます活躍が期待される管理栄養士に参加者は熱心に耳を傾けていた。

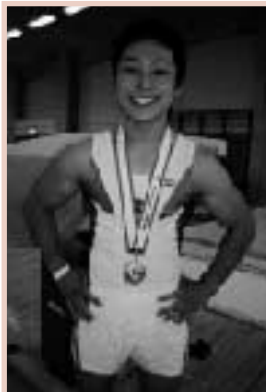
高等学校通信

インターハイで個人優勝者2名の快挙!!

初のプロ野球選手誕生へ!!~東北楽天ゴールデンイーグルス~

●インターハイで個人優勝者2名!

全国高校総合体育大会が7月28日から「この夏佐賀に君色の風が吹く」をスローガンに29競技で実施された。大会4日目には、体操男子個人種目の跳馬で常磐大学高校3年の佐藤巧君が難易度の高い“ドゥリックス”を決めて16000点で初優勝。団体では11位の成績を収めた。また、男子フェンシング・エペ個人の部では、1年の鬼澤大真君が15対13の接戦を制し、初出場で初優勝した。



佐藤巧君



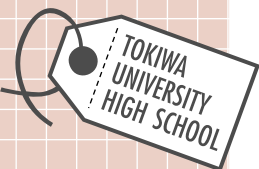
鬼澤大真君

●全国高校野球茨城大会で準優勝!

第89回全国高校野球茨城大会では、創部8年目の野球部が速球と切れの良いスライダーを武器にした菊池保則投手を擁して、準優勝という成績を収めた。昨年の秋季関東地区高校野球県大会に引き続き準優勝を遂げ、確実に力をつけてきている野球部のこれからの期待したい。



また菊池投手は、プロ野球のドラフト会議で東北楽天ゴールデンイーグルスから指名を受けた。常磐大学出身者では、久保田智之投手(阪神)、小野寺力投手(西武)が活躍しているが、これに続き常大高初のプロ野球選手の誕生に高校関係者やチームメイトからは喜びと励ましの声が上がった。



●2007年度の就職状況中間報告（内定の状況など）

2007年度の就職状況については、金融・保険業、卸・小売、サービス業を中心に、既に数社から内定を獲得している学生がいる一方、現在も活動中の学生もいる。学内会社説明会、就職支援サイト、求人票、学生支援センターキャリア支援担当窓口等を積極的に利用、諦めずに就職活動をしていただきたい。なお、求人票の受理件数は昨年比で増加しており、本学学生を求める企業はたくさんある。企業の求人意欲の回復とあいまって学生の内定先は幅広い職種・業種に広まっており、内定状況も昨年の同時期と比べても上回っている。

9月以降については、大学4年・短大2年生に対して引続き、学内での会社説明会を実施する。更に、キャリア支援担当窓口では個別相談に応じており、遠慮せずに足を運んでほしい。

大学3年・短大1年生に対しては、9月に就職ガイダンスⅡ、企業試験対策講座、10月にマナー講座、就職支援サイトの使い方、11月に業界研究、12月にバスツアー、等を企画、就職活動に必要な情報を適宜提供している。積極的に参加している学生は、「早期に内定を獲得」という結果も出ている。

大学1・2年生に対しては、前期から引き続き、将来に向けて「なりたい自分」のヒントをつかむキャリアデザイン講座を開講している。学生生活をより充実したものにする上でも魅力ある講座であり、積極的に参加してほしい。（詳しくは、キャリア支援担当が<http://www.tokwa.ac.jp/career/index.htm>まで）

内定者レポート



株式会社常陽銀行 内定
竹内 雄治
コミュニティ振興学部
コミュニティ文化学科



キヤノン株式会社 内定
出口 紘子
短期大学
キャリア教養学科

自分の目で見て耳で聞いた
生きた情報が大切です！

志 望する業界を決めたのは3年生の夏でした。学内で開かれた証券外務員二種の受験講座に参加し、試験に挑戦すると合格。そのとき、この資格を活かせる仕事に就きたいと思い、金融業界に絞り込んだ就職活動を始めました。本命の企業は常陽銀行。普段から利用していることもあり、自分の生活に深く入り込んでいる企業だったからです。でも、ここで働きたいと強く思ったのは、学内で行われた常陽銀行の会社説明会に参加したとき。それまで銀行というと固いイメージがあったのですが、人事の方がとても優しい雰囲気でもてなされた感じがしたんです。それから、キャリア支援担当が主催する金融業界対策講座などで、就職試験に向けての準備も開始。もちろん、常陽銀行が開催するセミナーやガイダンスへの参加も欠かせません。人事の方に顔と名前を覚えていただけるくらい通いました。やはり仕事選びは一生涯の問題。自分の目で見て耳で聞いた、生きた情報を大切にしたいですね。

型にとらわれないこと
自分のやり方で努力する！

入 学してからたくさんの就職ガイダンスがあったので、1年の初めから就職のことは考えていました。でも、自分の働く姿が想像できず、就職情報サイトに登録したのは11月になってから。インターネットでの企業研究や就職セミナーに参加する程度でした。就職を決めた『キヤノン株式会社』は、業界内でもいち早くリサイクル活動などの環境問題に取り組んでいるところに惹かれて受験しました。試験は、筆記と面接。筆記は問題ないけど、人前で話すのが苦手なので、面接では苦労しました。もちろん、マニュアルでの練習や面接講座への出席など、できる限りの対策はしていたけど結果はダメ。だったら、うまく話せなくても、マニュアルにとらわれず自分の言葉で伝えようと思ったんです。すると、苦手だった面接試験を通過することができました。コミュニケーションは心の会話。マニュアル通りでは何も伝わりません。自分の言葉で思いを伝えることが一番大切なことだったんです！

2006年度財務状況報告

2006年度決算は、5月25日の
理事会・評議員会で承認された。

貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書の財務三表をみて、全般的には安定した財務状況を維持するとともに、第1号基本金の増額でわかるように、規模の拡大につなげることができた決算内容である。

気になる点としては、「学生生徒等納付金収入」の前年比減額と、「教育研究経費」の執行残額の点であり、今後、学生・生徒等の確保と、適正な予算配分・執行について、改善・検討を行いつつ、安定した状態をいかに維持していくかが課題となる。あわせて、智学館中等教育学校の開設および、大学の学科改組を控え、経費節減により一層努めることが肝要である。

貸借対照表 2007年3月31日

単位：千円)

区 分	2006年度末	2005年度末	増 減
固 定 資 産	24,308,080	22,929,176	1,378,904
有 形 固 定 資 産	20,541,829	20,663,020	121,191
そ の 他 の 固 定 資 産	3,766,251	2,266,156	1,500,095
流 動 資 産	6,450,235	7,583,297	1,133,062
資 産 の 部 合 計	30,758,315	30,512,473	245,842
固 定 負 債	790,736	782,216	8,520
流 動 負 債	912,232	945,579	33,347
負 債 の 部 合 計	1,702,968	1,727,795	24,827
基 本 金	30,938,994	28,831,461	2,107,533
第 1 号 基 本 金	29,049,205	28,465,349	583,856
第 2 号 基 本 金	1,500,000	0	1,500,000
第 3 号 基 本 金	1,200	1,200	0
第 4 号 基 本 金	388,589	364,912	23,677
消 費 収 支 差 額	1,883,647	46,783	1,836,864
翌年度繰越消費支出超過額	1,883,647	46,783	1,836,864
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	30,758,315	30,512,473	245,842

資金収支計算書 2006年4月1日から2007年3月31日まで

収入の部

単位：千円)

科 目	2006年度予算	2006年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,417,627	4,483,995	66,368
手数料収入	96,626	96,010	616
寄付金収入	5,000	950	4,050
補助金収入	1,006,499	1,011,933	5,434
資産運用収入	216,664	213,653	3,011
資産売却収入	300,000	100,000	200,000
事業収入	64,528	66,543	2,015
雑収入	20,084	73,214	53,130
小 計	6,127,028	6,046,298	80,730
前受金収入	900,383	819,152	81,231
その他の収入	156,078	156,082	4
資金収入調整勘定	869,962	965,424	95,462
前年度繰越支払資金	7,427,218	7,427,218	0
収入の部合計	13,740,745	13,483,326	257,419

支出の部

人件費支出	給与支出	3,193,064	2,993,388	199,676
	退職金等支出	16,232	80,437	64,205
教育研究経費支出		1,381,418	1,189,467	191,951
管理経費支出		718,382	581,354	137,028
施設関係支出		900,589	576,464	324,125
設備関係支出		135,057	114,797	20,260
資産運用支出		1,800,000	1,800,000	200,000
小 計		8,144,742	7,135,907	1,008,835
その他の支出		75,831	83,085	7,254
予 備 費		30,000		30,000
資金支出調整勘定		0	93,079	93,079
次年度繰越支払資金		5,490,172	6,357,413	867,241
支出の部合計		13,740,745	13,483,326	257,419

消費収支計算書 2006年4月1日から2007年3月31日まで

消費収入の部

単位：千円)

科 目	2006年度予算	2006年度決算	差 異
学生生徒等納付金	4,417,627	4,483,995	66,368
手数料	96,626	96,010	616
寄付金	5,000	6,634	1,634
補助金	1,006,499	1,011,933	5,434
資産運用収入	216,664	213,653	3,011
事業収入	64,528	66,543	2,015
雑収入	20,084	73,214	53,130
帰属収入合計	5,827,028	5,951,982	124,954
基本金組入額合計	2,403,545	2,107,533	296,012
消費収入の部合計	3,423,483	3,844,449	420,966

消費支出の部

人 件 費	給 与	3,193,064	2,993,387	199,677
	退職金等	36,541	88,958	52,417
教育研究経費		2,109,177	1,905,387	203,790
管理経費		824,562	682,033	142,529
資産処分差額		0	1,666	1,666
徴収不能引当金繰入額		0	9,882	9,882
予 備 費		30,000		30,000
消費支出の部合計		6,193,344	5,681,313	512,031
当年度消費支出超過額()		2,769,861	1,836,864	
前年度繰越消費支出超過額()		46,783	46,783	
翌年度繰越消費支出超過額()		2,816,644	1,883,647	

卒業生センター便り

● 短期大学幼児教育保育学科 ホームカミングデー開催

8月26日10時から、常磐大学見和キャンパスにおいて、2006年度(2007年3月)に卒業した方々を対象としたホームカミングデーを開催しました。卒業生73名、教職員10名の計83名がご参加くださいました。

鎌田学科長からの挨拶の後、懇親パーティーがスタートしました。卒業して5カ月近くが経ち、仕事に対する喜びや悩み、学生時代の思い出などを話し合い、卒業生・教員ともに再会を喜び、親交を深めていました。先生方からの挨拶や卒業生からの近況報告をもらい、最後に集合写真を撮って閉会しました。「友達や先生と会えて、とても楽しかった」、「もっと時間が長くてもいいのに」といった感想もいただきました。約2時間、終始アットホームな雰囲気の中、盛会のうちに閉会しました。



【ホームカミングデー開催予告】

短大：生活科学科生活科学専攻2006年度卒業生（10月20日開催）

大学：1991年度卒業生（10月20日開催）

詳細については、次号学報（Topos vol.47）でご報告します。

同窓会活動報告

● 常磐大学高等学校同窓会「常磐学園同窓会」

さる8月26日、諸澤英道理事長をはじめとする来賓をお迎えして、水戸駅近くのホテルレイクビュー水戸で「平成19年度常磐学園同窓会総会」が開催されました。会のはじめに、8月7日にご逝去された諸澤みさを先生（元常磐学園同窓会名誉会長、元常磐女子高等学校副校長）のご冥福を祈って参加者全員で黙祷を捧げました。議事終了後の懇親会では最初に、ご出席下さった恩師の方々の高校での思い出や近況を伺いました。参加者は、先生方の思い出話に自分の思い出を重ねて話に聞き入っていました。次に常磐大学高等学校の学校紹介ビデオが上映されると、現在の学校の様子をあまりご存じない年輩の方々は、自分達の学校生活とのあまりの違いに目を見張り、熱心に見入っていらっしゃいました。最後は恒例の「ラッキーピング」です。今回も特賞の“ご自宅に花かごをお届け”他の賞品をめざし皆真剣に取り組んでいました。おなかも心も満たされ、次の再会を約束し会が終了しました。



● 同窓会館の利用について

同窓会館は卒業生の方々に広くご利用いただける施設です。7・8月には、高校卒業生によるクラス会や、大学ゼミ同窓会などにご利用いただきました。会に参加した方々は、みなさん、とても楽しかったと喜んでいらっしゃいました。

同窓会館でクラス会やゼミ会を行いませんか？詳細は同窓会館までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先
〒310 0036 茨城県水戸市新荘1-7-26
学校法人常磐大学 卒業生センター
TEL& FAX / 029 231 8162
事務取扱時間 / 平日9:00 ~ 17:00



寄付者芳名

寄付者氏名	金額	内容、指定用途等
常磐短期大学名誉教授 諸澤みさを様	500,000円	学校法人常磐大学に対する 教育研究の奨励

訃報

諸澤みさを先生 ご逝去を悼む

常磐短期大学名誉教授、常磐女子高等学校・元副校長 諸澤みさを先生(満93歳)が8月7日にご逝去されました。



諸澤先生は、1933年に水戸常磐女学校に就任され、1967年から1999年まで常磐女子高等学校(現・常磐大学高等学校)の副校長を務められました。また、1966年の常磐学園短期大学(現・常磐短期大学)の開学に当たっては多大な功績を残され、1975年から1992年まで生活科学科教授として学生の教育・研究に尽力され、2005年には常磐短期大学名誉教授の称号が授与されました。この間、本法人の評議員(1951年~2004年) 監理局長、事務局長(1983年~1997年)として、常磐大学の開学および大学院の設置をはじめ本法人の管理運営に多大な貢献をされました。さらに、学外においては茨城県や茨城県教育委員会などで各種委員を務められました。そして、1974年に文部大臣から産業教育功労者として、1995年に茨城県から茨城県功績者として表彰され、1998年には茨城県知事から多年にわたる私学振興の寄与により感謝状が贈呈されました。

ここに、60有余年の永きにわたり本法人の教育および管理運営に尽力された多大なる御功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

梢を渡る風も涼しくなり、実りの秋がやって来しました。そして学校法人常磐大学が進めるさまざまな取り組みも、収穫の準備に向けて着実に動きだしています。第1回入学試験の出願開始を1カ月後に控えた智学館中等教育学校、設置準備が着々と進む健康栄養学科・心理学科・教育学科・経営学科。それぞれが本格的に始動する2008年4月が楽しみです。